

平成 25 年度第 1 回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 平成 25 年 8 月 27 日（火）
但馬分科会 14:00～14:50
場 所 豊岡市役所 3 階 庁議室
出席者 但馬分科会 9 名中 7 名
欠席者 但馬分科会（公立八鹿病院事務部長、但馬青少年本部委員）
オブザーバー 県市町振興課（職員）
事務局 豊岡市（政策調整部参事、政策調整課長、政策調整係長）
関係市町 養父市（企画政策課長）
朝来市（総合政策課上席主幹）
香美町（企画課長）
新温泉町（企画課長、課長補佐）

1. 但馬分科会

分科会長

今日はたいへんお忙しいところ出席を賜りましてありがとうございます。この会は懇談会という名称で、但馬定住自立圏の共生ビジョンを作るにあたって、それぞれの団体の皆さんのご意見をいただく会であります。本日は新温泉町が入れることによって一部変更を行う必要があります、その変更を検討する懇談会でございますので、ぜひご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、協議事項にあります但馬定住自立圏共生ビジョンの変更について、事務局より説明をお願いします。

事務局

お配りしています資料が 2 種類ございます。今回は内容よりも新温泉町との協定による事業費の追加と、現在の実態にあわせ事業費を変更しています。内容につきましては変更しておりませんが、今後の連携について後ほどご意見をお伺いしたいと考えています。

はじめにこれまでの経過を説明させていただきます。平成 24 年度に但馬定住自立圏共生ビジョンという 5 年間の計画書を策定しました。但馬の中で連携して行う事業をそれぞれのまちの予算で計画書の中に上げて特別交付税を受けています。豊岡の場合ですと年間 8 千万円余りを受けようというものですし、関係市町につきましては 1 千万円を上限に交付を受けるという制度でございます。

この制度は、但馬広域行政事務組合や北但行政事務組合などの一部事務組合のように市町から事務を引き上げてまとめて事務を行うというのではなく、あくまでも各市町の中で事業を進めることによって特別交付税を受けることになっています。

また、但馬定住自立圏の考え方については、去年の懇談会の中で観光振興、就業の場の確保、但馬牛の振興などのご意見をいただきました。そのご意見を踏まえ各市町の分野ごとに担当者会を開催し、市町ごとに予算を確保して連携する事業がないか議論を進めてまいりましたが、現在様々な連携をしている以上に連携を進めるという結論に至っておりません。今回、提案いただきましたご意見を反映できていませんが、後ほど頂戴しますご意見と併せて引き続き議論を深めていただきたいと思います。

新たな取組みについては一部の限られたものになっていますが、定住自立圏という制度が人口流出や定住を図ることがねらいになっています。既に行っている事業についても但馬の定住を図るうえで大切であるという視点で、それを協定によって担保する意味で取り組むことも方法であると考えています。

現に取り組んでいることも当然ですが、新たな取組みについてご意見をいただきたいと思います。この懇談会につきましては、ビジョンという計画書を検討いただいたあと、関係市町で意見交換をして、最終的に豊岡市が変更するというものでございます。豊岡市の議会に参考で配布するという流れで進めています。

それでは、但馬定住自立圏共生ビジョンをご覧ください。資料の1ページをご覧ください。定住自立圏及び市町の名称というところがございます。(2)で圏域を構成する市町の名称に赤字で新温泉町を加えています。

その下の但馬の地図をご覧ください。策定時のビジョンでは新温泉町の名称を抜いていましたが、今回、表記しています。

その他の文書表記についての変更がないため、事業費の変更につきましてはA3横長の資料で説明させていただきます。

定住自立圏構想では、生活機能の強化に係る政策分野、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野、圏域マネジメント能力強化に係る政策分野の各項目で一つ以上の取組みが必要になっており、左の欄に記載しています項目が連携項目となります。

事業費の欄をご覧ください。赤字で記載しています部分が今回追加する部分になります。新温泉町については、ビジョンの期間(H24からH25)のうち平成25年度以降に事業費を記載しています。このビジョンにおいては、平成24年度の事業費を「一」としていますが、実際の予算がないというわけではありません。

1枚目の周産期医療センターの整備の欄をご覧ください。ここでは新温泉町は入っていませんが豊岡市から香美町までの施設整備に係る公立豊岡病院組合への負担金を事業費として記載しています。

裏面をご覧ください。ドクターカーや小児救急医療相談などをあげていますが、それぞれ新温泉町の事業費の追加と併せて、各市町の事業費についても現在の数値に置き換えています。

3ページでは、地域公共交通を記載していますが、但馬空港の利用促進から鉄道交通対策、バスについては路線ごとに追加なり修正をしています。

最後に職員の研修事業については、各市町が負担金を持って行っている事業ではありませんが、ふるさとづくり協会で基金の利息運用で研修会を実施しているものです。現在のところは事業費が入っていませんが、各市町の首長からは、負担を出しても職員研修を充実し能力アップを図る必要があると伺っています。

このビジョンの事業費については、あくまでも計画や予算化できているものを記載しています。

もう一度、ビジョンをご覧ください。各ページの関係市町名の欄に新温泉町を記載しています。例えば、13ページでは、3市2町すべてが取り組む場合は、「全市町」とし、14ページでは新温泉町を追加しています。

以上簡単に全体を説明させていただきましたが、ご意見をお願いいたします。

今の説明の中で、昨年策定しました共生ビジョンはこういうものだということは、承知していただけたと思いますけれども、8ページに書かれていることが全体

の組立になっています。1番左に視点が3つありますが、視点の3番目に生活機能の強化に係る政策分野ということで、アの医療分野からエの防災まであり、3番目の人材育成がある。このように連携施策の項目がある。これが現在できている計画で、この部分に新温泉町がお入りになって修正されたものと、現行の事業費が変わったものが赤字で修正されたということです。

委員の皆さん、何かございましたらご意見をお願いします。またこれ以外のこと、共生ビジョンに対するご質問でも結構ですので、ご意見をいただきますようお願いします。

委員 赤字は事業費の変更ということで理解したらよろしいでしょうか。新温泉町が入って分母が変わったといところもあるのでしょうか。

事務局 新温泉町以外の市町の数字の変更は、現在の事業費に置き換えたためで、影響を受けて変わったものではありません。

委員 総事業費が変わったということですか。単純に分母があって割り振りが変わったということですか。

事務局 事業費は各市町の積み上げですので、全体的に増加している場合や減少している場合があります。全体の枠の中で取り組んでいるものではありません。

分科会長 但馬全体でこれだけの事業費ということではなく、市町の積み上げということですね。

委員 新温泉町が入って皆さんにご迷惑をかけたのかと思いましたが、少し安心しました。

委員 変更された部分では、ある意味では下方修正されたり、上方修正されたりといった今の情勢にあわせて修正されたという理解でよろしいのでしょうか。

事務局 そのとおりです。それぞれのまちの中で様々な計画がありますが、例えば総合計画の実施計画では、毎年予算に応じて見直しを行っています。今回の修正は予算や計画に合わせた点があります。また、周産期医療センター整備の事業費は、策定時に記載しておりませんが、現時点で明確になった数字を記載しています。

委員 事務局の補足です。事業費の数字は、今現在担当が把握している数字で、変更を報告したまちは赤字、報告していないまちは黒字となっています。周産期医療センター場合は9月10日に入札があり9月末に契約するわけですが、その時点で事業費が変わりますので、赤だとか黒だからといって意識されなくて良いと思います。

委員 先ほど各市町の積み上げの数字ということだったり、周産期医療センターの事業費が固まって各市町の負担が決まるというものもある訳ですが、基本的なことになって恐縮ですが、広域的に取り組むということは財政的あるいは行政サービスの面でスケールメリットをある程度期待するところがあると思うんですが、但馬定住自立圏の3市2町が取り組む項目というのは、この項目で決まってくるわけですか。個別の事業は追加される可能性があるわけですか。

事務局 連携項目を共生ビジョンに入れようとする場合には、まず協定の中に記載されていることが前提になります。例えば今回いただいた議論が協定項目にない場合は、ビジョンの中に入れることはできませんが、新たな項目が出てきた場合には議会のご承認をいただいてから、ビジョンに記載するための議論を深めることになります。このビジョンの項目は協定書に基づいた内容とご理解をお願いします。

委員 それらの事業の取組みのメリットは、豊岡市と関係市町に交付税措置があるという財政的なメリットがあるということによろしいですか。

事務局
委員

財政的には、そのとおりです。

人材育成で、職員研修事業が事業費としては上がっておりませんが、これは県と市町が拠出した基金の果実で運用しているものです。新たに研修を行う場合に利息で事業を行っている限り、ここに事業費が上がってきません。今実際に各市町が合同で研修を行っているわけですから、事業費が上がってきても良い気がしますがいかがでしょうか。

事務局

事業費につきましては、ご指摘のとおりだと思います。

この数字については、各市町の予算額に対して特別交付税を充てるということになっています。但馬各市町長の考えとしては、今後各市町から負担金を支出しても更に研修を充実する必要があると意見が出ておりました。研修を充実する中で果実運用では研修が難しく、各市町に負担金の予算が計上されれば、事業費を上げて行きたいと思います。

委員
事務局

講師金額としては、他の事業から見るとそんなに大きな事業費にはなりません。

構成市町長会があった際に、市町長からも行革等で職員数が減っている中で、より職員の育成が必要だという論点で議論がありました。現状に合うような職員育成の研修方法があれば模索をしていって但馬全域で職員育成を図っていくべきではないかと各市町長が賛同されました。

現在、人事担当課が検討委員会に出さしていただいていますので、もう少し議論を深めさせていただければと考えています。

委員
委員

わかりました。

山陰海岸ジオパーク推進事業で1市2町の事業費が上がっているんですが、これは各市町の積上げの数字なんでしょうか。独自の取組みが当然必要なんですけれども但馬全体でスケールメリットを活かした取組みを行う中で各市町が分担するようなこともあってよいと考えます。今後の検討として各市町にお願いしたいと思います。

事務局

協定を結んでいる1市2町事業を展開していますが、先ほど申し上げましたように今後、関係市町長が承認をして協定を見直すことになりましたら、議論を経てビジョンに加えていくという可能性はあると思います。ご意見をいただいて今後調整させていただければと考えています。

分科会長
事務局

他にございませんか。

一つ説明をさせていただきます。新温泉町の平成24年度の事業費が「一」になっていますが、あくまでもこのビジョンの中で平成25年度に新温泉町が追加になったためです。実際の町の予算では24年度も事業が行われており、計画の表記上事業費を入れていないことをご理解いただきますようお願いいたします。

委員
事務局
分科会長

4ページの資料で、事業費のカンマが抜けているところがあります。

修正します。失礼しました。

他にございませんか。

もともと大きな協定がありまして、それに基づいてこの懇談会で意見を述べていただいています。先ほどからご意見をいただいていますように、このビジョンの範囲の事業でよいのかとか、定住を進めるためには働く場所の問題もあります。そういうことの具体的事業をどのように但馬定住自立圏の中で展開するかについて、各市町で議論していただいて協定を見直す必要があるのか。いろいろな段階を踏んで次の段階があると考えています。

委員

なぜこのような計画を作るのかということもあろうかと思いますが、国に対して但馬の各市町が広域でこんな計画をつくり、こんな予算を持っていることを示すことができると思っています。

もう一つよろしいでしょうか。

ご案内いただいた時には、平成 25 年度は 1 回という予定が立てられているようですが、年 1 回各市町の数字的なあるいは内容をローリングする意味での 1 回ということですか。

事務局

平成 24 年度に策定しましたときには、3 回懇談会を開催する中で、圏域の将来像であるとか、連携項目などについてご意見をいただくなどのかなりの作業をしていただきました。今回は、新温泉町が加わっていただいたことによる事業費の追加や、事業費が明確になった点を修正すること、今後の取組みについてご意見をいただくという内容であったため、1 回の会議で可能ではないかと考えました。

更に検討が必要な場合には、1 回に限らず更に会議をもって議論を深めていただければと思います。

事務局

9 月中に共生ビジョンを変更し、議会に参考に配布し、公表していきたいという理由もございます。この後、必要に応じて再度意見交換が必要であれば懇談会の開催も行っていきたいと考えています。

委員

毎年、この時期を目途に会議が開催されるわけですか。

事務局

年に 1 度はこのような懇談会は持つ必要がありますし、少なくとも 8 月中には終えないと、特別交付税の算定には間に合わないと思います。

分科会長

昔からそうでしたが、人材育成は重要で 3 市 2 町ばらばらではうまく行かないですね。

事務局

参考に情報提供をさせていただきます。

但馬定住自立圏に取り組んでいる関係で、今年度から豊岡市に民間企業から職員 2 名を派遣を受けて豊岡が進めている大交流の事業に語学力を活かした取組みとインターネットを活用した取組みに従事していただいております。考え方や姿勢など様々な影響を受けています。研修も必要ですが、民間企業との交流も大切だと感じています。

この後の市町担当課長会議でも議論しますが、民間企業職員による研修会を但馬の関係市町で行い市町職員との交流の場も今年度設けたいと考えています。

このような事業も豊岡だけではなくて、定住自立圏に 3 市 2 町で取り組んでいる関係で国の様々な支援策に取り組むことができます。定住自立圏構想に取り組むメリットは、これ以外にもたくさんあると思います。

分科会長

他に内容についてのご意見がないようでしたら、これで終了させていただきたいと思いますが委員の皆さんいかがでしょうか。

それでは本日の懇談会はこれで終了させていただきます。本当にお忙しい時間にお越しいただきありがとうございました。ありがとうございました。